

JR海老名駅前「えびな安全・安心フェスティバル」において自衛隊をPR

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）は、10月7日（土）、JR海老名駅前の大型ショッピングモール周辺で実施された「えびな安全・安心フェスティバル」において自衛隊をPRした。

当日は、約12,000人が会場を訪れ、自衛隊ブースも多くの若者や家族連れで賑わい、親子らは迷彩服を着て1/2メートルトラックを背景に笑顔で写真撮影するなど、楽しんでいた。

広報官は運転したいという子供たちの要望に応え、抱き上げて運転席に座らせるとハンドルに手を載せてもいいよと話し、子供たちは満足げに運転気分を味わっている様子だった。

募集コーナーを訪れた高校生は「海上自衛官になりたい」と話し、仕事や隊内生活について質問し、広報官は笑顔で答えていた。

厚木募集案内所は「今後も、地域と連携して積極的に自衛隊の魅力をPRし、自衛隊への関心の喚起と理解促進に努めていきたい」としている。



家族連れの写真撮影を手伝う広報官



「ぼくも運転したい」と広報官に話す子供



迷彩服を試着し記念撮影をする家族

護衛艦「たかなみ」体験航海を支援 海上自衛官である父に憧れ、将来の夢は艦艇の給養員



「たかなみ」体験航海に参加した艦艇の給養員を目指す山下翔叶君（右）とお母さん（左）（川崎港東扇島埠頭で）

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）は、10月9日（月）、川崎港東扇島埠頭（神奈川県川崎市）海自横須賀基地で実施された護衛艦「たかなみ」の体験航海において、募集対象者3名とその家族を支援した。

秋晴れのもと、母親と共に参加した綾瀬市在住の高校1年生山下 翔叶（やました しょうと）君は、埠頭から見上げる護衛艦の大きさに興奮気味の面持ちで乗艦し、艦内の構造や装備、職務に当たる海上自衛官の姿に興味津々の様子だった。

山下君は、館山基地で整備員を務める海上自衛官の父に憧れ、自身も海上自衛官を目指し、なかでも自身が得意とする料理の腕を活かせる給養員になることを希望している。

後日、広報官が写真を届けると山下君は「たかなみの厨房は見られませんでしたが、艦内は思ったよりも広く、部屋にいろんな工夫がされていて面白く思いました。とても嬉しかったです」と話し、海上自衛官になる決心がより強くなった様子だった。

厚木募集案内所は「今後も募集対象者に対し様々な機会を通じて、自衛隊の活動や魅力を積極的にPRし、1人でも多くの若者の志願に繋がるよう募集活動に励んでいきたい」としている。